

貧乏物語

河上肇著

大内兵衛解説



戦時景気に動う第一次世界大戦下の日本で、社会問題化しはじめた「貧乏」の問題を論じた河上肇(1879-1946)は、なぜ多数の人が貧乏しているのか、そしていかにして貧乏を脱出するかを古今東西の典籍を縦横に駆使しながら精確こめて説く。本書の著作権はこそ貧乏退治の第一策であると。大正5年9-12月「大隈朝日新聞」に連載。大きな影響を与えた書。



書 132-1
岩波文庫

河上肇没後 70 周年記念座談会 河上肇の人と時代

2016年1月30日(土)、13時半～17時
京都大学楽友会館 2階講演室
東山通り近衛東入ル 電話 075-753-7603

今年は河上肇(1879～1946)没後70周年、秀夫人(1885～1966)没後50周年です。河上肇記念会では、『貧乏物語』『資本論入門』『経済学大綱』『自叙伝』などで知られた戦前の日本を代表する経済学者を偲び、河上肇と私たちの生きる時代を見つめて、公開シンポジウムを開催します。参加無料、予約不要です。ふるってご参加ください。

第1部：肇さんの思い出を語る

今井香子 河上肇と立野正一
対話 鈴木洵子・中井郁子

第2部 河上肇と時代を語る—貧困、沖縄、大学自治—

阿知羅 隆雄 沖縄舌禍事件と「経済史」ノート
池上 惇 『貧乏物語』と『21世紀の資本』
—能力貧困・所得貧困を中心として—
森岡 孝二 「雇用身分社会」と働き方の戦前回帰
西牟田 祐二 大学の自治と河上肇の生き方



主催：河上肇記念会

京都市左京区田中玄京町 76

山本正志方

電話・FAX: 075-702-6705

写真は河上肇が眠る秋の法然院